研究機関名：東北大学

1.受付番号	2018-003
2.研究課題名	日本語版 Post-Event Processing Inventory の作成
3.研究期間	2018 年 12 月 13 日～ 2020 年 3 月 31 日
4.研究の概要	**意義・目的　（研究の背景・目的や倫理的項目について的確に記すこと。）** Post-Event Processing（以下，PEP とする）は，社交場面が終了した後の，その場面に関する詳細な回顧的思考をさし，社交不安の維持に寄与する要因であることが多くの研究で明らかにされている。このように，PEP の程度についての適切な評価を行うことは社交不安を示す者の理解において重要であるといえる。しかしながら，PEP を測定する尺度として本邦で整備されている尺度である Post-Event Processing Questionnaire（PEPQ）日本語版（五十嵐・嶋田，2006）は，その原版尺度において，不安感情など，PEP とは異なる要素を含んでいることをはじめとして多くの問題点が指摘されており，現在諸外国においてはほとんど用いられていない。また，PEPQ は，過去の一定期間に生起した出来事についての状態的な PEP を測定する尺度であるが，このような状態的な指標は，心理的介入などの治療効果を把握するための指標には適していない。したがって，特性的な PEP，すなわち，PEP に従事しやすい傾向を把握するための測度を整備することは重要な課題であるといえる。これらの課題を解決しうる尺度として，近年，Post-Event Processing Inventory（PEPI ; Blackie & Kocovski，2017）が開発された。PEPI は，状態尺度と特性尺度のそれぞれを有しており，PEP を測定する尺度として適切な尺度特性を有することが確認されている。本研究においては，PEPI の日本語版を作成し，その信頼性と妥当性を検討することを目的とする。
	方法（研究に必要な対象者人数、年齢構成、性別、および対象者を選ぶ方針・基準も記すこと） 本研究においては，尺度の標準化に際して幅広い対象者からの回答を取得することを目的に，インターネットリサーチ会社である楽天インサイトのパネル登録者を対象として実施する。また，尺度特性の検討にあたっては，多くの尺度との並行検査が必要となるため，参加者の回答負担等に配慮し，複数の異なるサンプルを用いた複数回の調査（調査１～３）によって検討を行う。具体的には次頁に示した対象者に対して実施する。 【調査１（尺度の因子構造の検討，構成概念妥当性，再検査信頼性の検討）】 ＜調査１－１＞ 対象者：18 歳以上の男女 400 名程度。 ＜調査１－２＞ 対象者：調査１－１に回答した者のうち 100 名程度。 【調査２（尺度の構成概念妥当性の検討）】 対象者：18 歳以上の男女 400 名程度。

	【調査３（尺度の構成概念妥当性の検討）】 ＜調査３－１＞ 対象者：楽天インサイトの「疾患パネル」に登録しており，「社会不安障害（社交不安障害，社交不安症）」の診断を受け，定期的に医療機関に通院している 18 歳以上の男女 100 名程度。 ＜調査３－２＞ 楽天インサイトの「疾患パネル」に登録していない 18 歳以上の男女 100 名程度。
	問い合わせ・苦情等の窓口（講座・研究室の連絡先を記入し、研究者の個人名は記入しないこと） 教育心理学講座・臨床心理学分野　Tel：795-6145

（紙面が不足するときには、罫線の縦幅を任意に増やし、次頁送りにしてください。）